

## ◆定員オーバーの育成学級 改善求め奮闘

市の学童保育制度である育成学級には20の小学校に1,763人の児童が通級しています(2014年4月1日)。利用率は25.2%で4人に1人の児童が通い、年々増加しています。国の放課後児童クラブガイドラインでは、1級あたりの定員は40人となっていますが、市内13学級で定員をオーバーし、ギュウギュウ詰め状態です。また、土曜日は13の育成学級が閉級し9つの拠点校だけの開設となっているため、一人で家で過ごす子もいます。

党議員団は、国基準を大きく超える学級人数の解消や土曜日の全校開設を求めてきました。学級人数の解消については、2014年度、大久保育成学級が建替えることになりました。

また、多くの保護者から新年の開設を1月6日からではなく4日からにしてほしいとの要望が出されていました。党議員団は4日からの開設を求め、2014年1月から4日開設となりました。

## ◆保育所が足りないー 待機児童解消へ奮闘

保育所待機児童をなくするという市民の願いは切実です。しかし市は、公立保育所を廃園し、待機児童の解消に背を向けてきました。また、保育への市の責任を放棄して、公立保育所の民営化を強行してきました。

保護者や保育関係者などの運動と党議員団の議会での追及で、民間保育所の新設などで定数が増加しましたが、保育需要の実態には

対応しきれっていません。市長は、2013年4月と2014年4月には、「国の基準では待機児はゼロになった」といいましたが、実際には、2013年度末には264人、2014年4月では81人が保育所に入れず待機となっています。

党議員団は、待機児ゼロをめざすとともに、「子ども・子育て支援新制度」による保育所制度の改善を許さない運動をすすめていきます。



## ◆消防力の強化へ 前進

災害や火災などから市民を守るために消防職員の充実が求められています。党議員団は、必要な人員の充実を求めてきました。消防職員定数が増員され、救急隊が4隊から5隊へと拡充されました。また、耐震強度が不足していた伊勢田消防分署は、2014年度に建て替えられることになりました。

## ◆JR 4 駅などバリアフリー化へ

党議員団は、駅周辺で利用者アンケートを行ってJRや近鉄、京阪と交渉するなど、市民とともに駅のバリアフリー化を求めてきました。

JR六地蔵駅、木幡駅、黄檗駅の3駅については、「JR奈良線高速化・複線化第2期事業」の関連事業としてバリアフリー化をすすめることになりました。しかし、近鉄小倉駅、伊勢田駅のバリアフリー化の計画は未定のままです。

また、JR奈良線の「第2期事業」では、総事業費369億円に対し宇治市の負担は39億2千万円となる見込みです。「第1期工事」では、JRの負担は2分の1でしたが、わずか4分の1まで減っています。市の負担は、バリアフリー化事業や駅前広場事業などの関連事業費を加えると55億円を超える見込みとなっています。党議員団は、JRに応分の負担を求めるよう、市に求めています。